

派遣者番号	R5K06	氏名	高崎 裕之
研究主題 —副主題—	道徳教育の要としての役割を果たす道徳科の在り方の追究 —重点内容項目に意図的に関わる道徳科の授業実践—		
派遣先大学	帝京大学 教職大学院	指導担当者	赤堀 博行
所属	稲城市立稲城第七小学校	所属長	黒澤 敦史

キーワード：学校教育全体で行う道徳教育 「補充」「深化」「統合」 特色ある教育活動

要旨：本研究の目的は、学校教育全体で行う道徳教育、道徳教育の要としての役割を果たす道徳科の具体的な在り方を明らかにしていくことである。まず、文献調査を通して、これからの道徳教育の在り方において重要であることを以下のように再確認した。

- ・校長の方針を明確にし、各学校で道徳教育の重点目標を定めること
- ・各学校の実情を基に、創意工夫を生かした特色ある教育活動を行い、その中で道徳教育を意図して行うこと
- ・学校教育全体で道徳教育を行い、「補充」「深化」「統合」を明確に意図した道徳科の授業を行うこと

このことを基に、A市立B小学校にて、その地域の特色を生かした総合的な学習の時間の単元を構想し、B小学校の重点内容項目に意図的に関わる道徳教育を行った。そして、「補充」「深化」「統合」を明確に意図した道徳科の授業を行い、学校教育全体で行う道徳教育の具体的な授業の在り方を提案した。

道徳教育の要としての役割を果たす道徳科の在り方の追究

—重点内容項目に意図的に関わる道徳科の授業実践—

高 崎 裕 之

帝京大学大学院教職研究科 スクール・リーダーコース

キーワード：学校教育全体で行う道徳教育 「補充」「深化」統合 特色ある教育活動

1 研究主題の設定と研究目的

学習指導要領には、学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体で行うことと示されている。また、道徳科は、各教育活動における道徳教育を補ったり（補充）、深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させたり（統合）する役割を果たすことが求められている。しかし、他の教育活動との関わりが考えられていない道徳科の授業を行っている現状がある。

本研究の目的は、学校教育全体で行う道徳教育、道徳教育の要としての役割を果たす道徳科の具体的な在り方を明らかにしていくことである。そこで、本研究では基礎研究において、文献調査を基に学校教育全体で行う道徳教育の意義や学校教育に求められている道徳教育の役割についての理解を深めた。また、全教育活動における道徳教育の現状を把握するため、調査研究を行った。その結果から考えられる課題や改善点を踏まえて授業研究を行い、道徳教育の要としての役割を果たす道徳科の在り方を追究した。

2 基礎研究

文献調査では、学習指導要領の変遷や過去の道徳指導書、学習指導要領解説や学習指導要領改訂等に関わる答申から学校の教育活動全体で行う道徳教育の意義を再確認し、これからの道徳教育の在り方において重視すべきことを以下のように導いた。

- | |
|---|
| ・校長の方針を明確にし、各学校で道徳教育の重点目標を明確に定めること。 |
| ・各学校の実情を基に、創意工夫を生かした特色ある教育活動について道徳教育を意図して行うこと。 |
| ・学校教育活動全体で行う道徳教育について、「補充」「深化」「統合」を明確に意図した道徳科の授業を行うこと。 |

3 調査研究

道徳科の特質である「補充」「深化」「統合」を明確に意図した道徳科の授業を行えるようにするために、学校教育全体で行う道徳教育の現状と課題を把握することが必要であると考え、A立全小・中学校道徳教育推進教師を対象に調査を行った。そこから、以下の二つの課題が挙げられた。

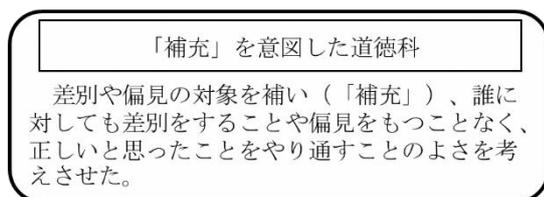
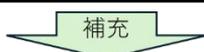
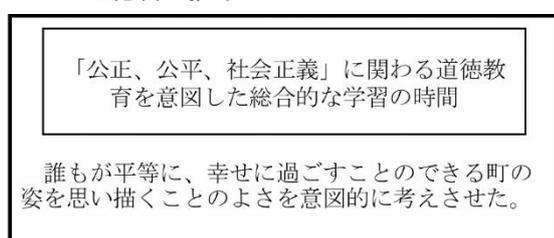
第一に、重点内容項目の共通理解が十分ではないことである。重点内容項目が学校全体で意識されていなかったり、道徳授業地区公開講座のみに関わっていたりする現状が浮かび上がった。また、重点内容項目は道徳教育の重点目標を具現化するために必須のものである。そのことから、重点内容項目を意識して、日々の教育活動を行う必要がある。

第二に、道徳科と他の教育活動との関連についてである。道徳科は本来、「補充」「深化」「統合」の役割が求められるものの、道徳科で考えたことを他の教育活動に生かすなど、道徳科を他教科の事前指導と捉えるなど、その特質が理解されていない現状が浮かび上がった。

4 授業研究

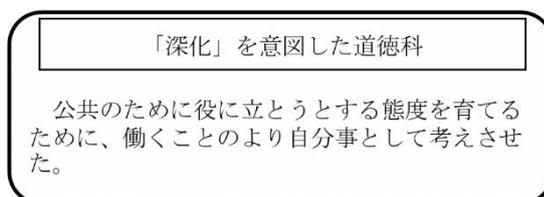
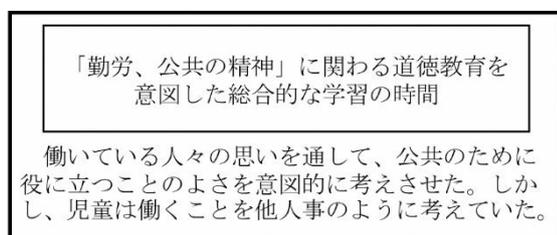
基礎研究、調査研究を通して明らかになったことを踏まえ、特色ある教育活動を推進していくにあたり、SWOT 分析を行い、A市立B小学校の強みや弱みを捉え、総合的な学習の時間の単元開発を行い、特色ある教育活動の中で意図的に重点内容項目に関わる道德教育を行った。そして、「補充」「深化」「統合」の役割を明確にした道德科の授業を実施した。

(1) 「公正、公平、社会正義」に関わる道德教育を意図した総合的な学習の時間の授業、「補充」を意図した道德科の授業



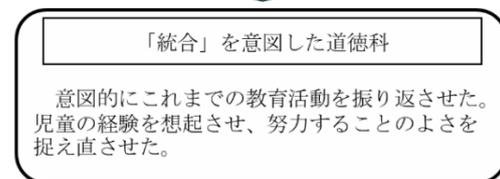
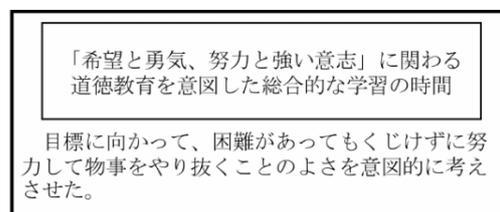
道德科では、総合的な学習の時間において単元の特質上、取り上げることができなかった差別や偏見の対象を道德科で補うことで、児童は道德的価値についてより多面的・多角的に考えていた。

(2) 「勤労、公共の精神」に関わる道德教育を意図した総合的な学習の時間の授業、「深化」を意図した道德科の授業



児童は、「勤労、公共の精神」に関わる道德的価値について、自分との関わりで考えていた。

(3) 「希望と勇気、努力と強い意志」に関わる道德教育を意図した総合的な学習の時間の授業、「統合」を意図した道德科の授業



内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」のように、学校教育で指導する機会が多い道德的価値については、「統合」を意図して授業を構想していくことも有効であると考えられる。

5 成果と課題

(1) 成果

特色ある教育活動の中で重点内容項目に関わる道德教育を意図的に行った本研究は、学校教育活動全体で行う道德教育の一つの具体的なモデルとして提案することができた。また、道德科の特質である「補充」「深化」「統合」の具体的な在り方を道德科の授業で検証し、提案することができた。

(2) 課題

全教育活動で意図的、計画的に道德教育を行っていくためには、道德教育全体計画、別葉の見直しを行い、全教員が活用できるものにしていく必要がある。全ての学校で、全ての教員が有効活用できる全体計画、別葉の在り方を考えていくことが必要である。

《主要参考文献》

- ・貝塚 茂樹「戦後教育改革と道德教育問題」日本図書センター 2001年
- ・文部科学省 初等教育資料1000号記念増刊 未来を拓く子供たちと共に、東洋館出版社 2020年